

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱																
工期	2024年4月1日 ~ 2025年3月31日		作成者	小瀬 裕之																
作業名称	車線分離標取替工	作業手順書	作成年月日	令和3年8月26日																
使用機械 使用設備	4tユニット、Wキャブ、連絡車		改正年月日	令和6年7月24日																
使用工具、機器	工具： ハール、パイプレンチ、単管、マイナスドライバー、脱着用具、 接着剤作成用の容器、掃除道具一式		現場責任者																	
	機械： コンプレッサー、削岩機、チップパー		協力会社	会社名																
保護具	ヘルメット、安全靴、防護メガネ、マスク、防護手袋(刃物作業時は耐切創用) 夜間:自発光チョッキ、脚絆		協力会社責任者	自筆サイン																
材料	ポストコーン(H=650、800、1000)、ジスロンボンド、水 ※色、自掃具は調書・図面等により確認		作業順序 <table border="1"> <tr><td>1</td><td>準備作業</td></tr> <tr><td>2</td><td>現場確認</td></tr> <tr><td>3</td><td>損傷した車線分離標の撤去</td></tr> <tr><td>4</td><td>新規の車線分離票を設置</td></tr> <tr><td>5</td><td>後片付け</td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>		1	準備作業	2	現場確認	3	損傷した車線分離標の撤去	4	新規の車線分離票を設置	5	後片付け						
1	準備作業																			
2	現場確認																			
3	損傷した車線分離標の撤去																			
4	新規の車線分離票を設置																			
5	後片付け																			
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特)の区別を記す	自動車運転免許証(大型もしくは中型) 特別教育:職長・振動工具取扱 技能講習:																			
作業人員	作業責任者 1人、作業員 4人 合計 5名																			
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日																		
	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自筆サインする)																			

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可 能 性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対する周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△△	2:かなり小さい	関係者に対する指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対する指示 1=関係者に対する周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	レベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業(全員)	朝礼・KYK 作業箇所確認 周辺安全確認 (埋設物・構造物)	健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締めめの位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。							
現場確認	作業箇所確認 周辺安全確認 (埋設物・構造物)								
損傷した車線分離標の撤去 (回らない場合) (ボルトが残った場合)	①車線分離標を回して撤去 ②回して緩まない場合はハールで撤去 ③ボルトが残った場合はパイプレンチで撤去	脱着用具を使用し、反時計回りに車線分離標を回し撤去する。 台座の下にハールを差し込み撤去する	ハールを使用し撤去中に、車線分離標が急にはずれて反動で転倒する。	△	△	△△	3	安	車線分離票をはずす時はゆっくりと力を入れ、慎重に作業を行う。
新規の車線分離標を設置	④埋設用脚の中を掃除 ⑤車線分離票を設置	水、マイナスドライバーを使用し埋設用脚を掃除する。 脱着用具を使用し、時計回りに車線分離標を回し撤去する。							
(舗装が損傷した場合)	⑥舗装の損傷箇所を掃除	撤去時に損傷してきた穴の中を掃除する。							
	⑦接着剤の作成	主剤・硬化剤を容器に入れ攪拌する。	接着剤を作成中に、皮膚に付着したり目に入ることにより負傷する。	△	×	△×	4	安	肌の露出をなくし、防護眼鏡・手袋を使用し作業をする。万が一目に入った場合は水で洗い流し、医師の診断を受ける。
	⑧車線分離票の設置	接着剤攪拌後に珪砂を入れ、十分に練り混ぜる。 穴の中に接着剤を流し、車線分離票を設置する。	配合比(重量比) 主剤 : 硬化剤 : 珪砂						
	⑨養生を行う	可使時間を確認し養生を行う。	養生終了後に、車線分離票が倒れ車両と接触する。	△	×	△×	4	安	温度と可使時間をしっかりと確認し、可使時間内は養生を行う。
後片付け(全員)	⑩発生材の積み込み	発生材を車両に積み込む	積み込みを行う際に、荷台の物を足を引っかけ転倒する。	×	○	×○	3	安	積み込む前に荷台を整理し動線を確保する。
	⑪清掃作業を行う	ほうき、フロア等で清掃する							
	⑫現場離脱	工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事							